

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市日下地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

地域の現状と課題について

【日下地区】

日下地区は7つの自治会・町内会で構成され、地域全体の高齢化率は25.95%と、高齢化が進んでいます。昭和40年代に開発された戸建て団地、特に笹下5丁目、6丁目は団塊の世代が多く、高齢化率も高いため、今後、更なる高齢化や独居高齢者の増加が予想されます。一方では、高齢になっても、ボランティア活動や地域のサロンなどで意欲的に活動している方も多くいます。

平成22年度に閉鎖されたIHI社宅跡地に開発されたプラウドシーズン洋光台は203世帯の戸建て住宅地が平成29年8月頃から販売を開始。平成30年度の5月より最終区画の販売が開始され、現在124世帯が入居しています。同時に140床の特別養護老人ホーム『笹の風』が開所され、医療も含めた総合的な福祉サービスが提供されています。その他の地区でも新たな戸建て住宅も増えてきており、若い世代が流入してきています。

地域では「地区計画の推進」「防災・減災への取り組み」「見守り・支えあい」「地域での世代間交流」の情報交換や検討をする場として「日下地域づくり会議」、多世代交流の場として地域に浸透してきている「ひした未来カフェ」を定期的に行っています。今後、更に増えていく若い世代や新たな住民を受け入れる地域づくりを検討する必要があります。

【日野・日野第一地区】

当包括が担当する日野地区は、5つの町内会（分譲、奈良、日野団地、うさぎがやと、日野第3）の一部であり、連合に加入しておらず、個々に情報収集をせざるを得ない状況にあります。日野団地を覗いては世帯数も少ないことと比例して、毎年数件程度の相談実績となっています。日野団地は高齢化が急速に進んでおり、多問題を抱えた家庭が非常に多い地域でもあり、日野中央3丁目エリアで相談件数をみると8割程度を日野団地が占めています。

日野第一地区は、寺尾町内会の一部を担当しています。高齢化率は約20%程度と、その他のエリアに比較して少なく、年間の相談件数からみても数件程度という実績になっています。

(1) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- ・来館者には挨拶だけではなく、極力声を掛けるよう心掛け、居心地の良い場所として認識してもらえよう職員全員で取り組んできました。
- ・全事業を通して参加者との「相談できる関係」を構築できるよう心掛けてきました。特に子育て事業については、サブコーディネーターを中心に参加者とコミュニケーションを取り、必要に応じては区役所の子ども家庭支援課や子育て支援者と連携を図り情報提供を行ってきました。
- ・横浜市の人口統計データが更新される毎年3月と10月に地域のアセスメントシートを更新し、人口動態の変化をもとに新しい事業の開催や広報活動の工夫などを行いました。

(2) 各事業の連携

- ・ 5部門で日常的に個別ケースの状況や地域課題について気軽に相談し情報共有を図ることで、多面的な個別支援、地域支援を行ないました。
- ・ 日下地区についてはアセスメントシートを更新すると共に、新住民とのつながり作りにも取り組みました。
- ・ 地理的に離れている日野地区については地区社協定例会、民児協定例会などを通じて、地域活動や課題についての把握に努めました。
- ・ 既存の地域のサロンやシルバー会の活性化を図ると共に、今までケアプラザで活動していた方をキーパーソンとして新たなサロンや地域活動に繋げました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・ 今年度は安定した職員体制を維持することができました。
- ・ 各部門、それぞれが専門性を高めるための外部研修に参加しました。
- ・ 指定管理者として、常に公正中立の立場を意識し、利用者、家族に寄り添った支援に努めました。
- ・ 今年度も地域と協力して防災の取組みを進め、日下地区防災訓練時に福祉避難所開設訓練を実施しました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 地域づくり会議を毎月開催し、地域住民と共に第3期福祉保健計画の進捗状況について共有してきました。
- ・ プラウドシーズンに入居した新住民と、子育て事業を中心に関わりながら、地域へのニーズや地域とのかかわり方などを、地域づくり会議を通じて伝えてきました。
- ・ ひした未来カフェではお互いの活動を共有し合う事で共通の悩みや課題など、積極的に意見交換している姿が見受けられました。また、新しい参加者の確保や子どもの参加を促す仕組み作りなども検討しました。
- ・ 例年は「日下地区子育て連絡会」として開催してましたが、今年度からより虐待に特化した会議という目的で2月に「日下地区オレンジ会議」を開催しました。
- ・ あいさつ推進チームでは「ひっしー川柳」を募集。日下小も6年生の夏休みの宿題として川柳作りに協力し126件の作品が集まりました。たんぽぽ祭りでは表彰式も行いました。
- ・ 笹下川再生プロジェクトの事務局として活動を後方支援してきました。新たな担い手の発掘や子どもからお年寄り、また最近では父親の参加者が増えてきており、更に多世代交流が深まってきました。
- ・ 今年度も継続して8月に「日下元気通信」を発行しました。生活支援と連携して、日下のまちの行事特集夏・秋編と各自治会町内会のサロンの様子が分かる内容に仕上げ、新しい住民を中心に地域活動の情報を提供してきました。

(5) 区行政との協働

- ・ 港南ひまわりプランの推進プロジェクトの一員として推進状況を検討しました。
- ・ 地域での見守り、ささえあいの活動の一環として「ひっしーのイエローバッジ」の取組みを進めました。
- ・ 包括カンファを定例で開催し、支援困難ケースについて区役所と連携して支援にあたりました。
- ・ 地区担当職員、支援チームとの情報交換を行ない、連携して地域支援にあたりました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ・事業開催にあたっては、常に人材育成の視点を持ちながら事業を運営した事で、参加者が地域活動やボランティア活動につながりました。
- ・子育て事業では、日下地区に新たに引っ越してきた子育て世代の参加が目立ち、ケアプラザの存在を知ってもらう良い機会となりました。
- ・「ありんこクラブ」では毎回終了後にアンケートを取り、その結果を踏まえて工夫・改善に取り組んできました。
- ・1歳児の親子学級「ありんこクラブ」からは、新たにサークル活動が生まれ、今後の新たな担い手や地域参加が見込められると思われまます。
また、区役所の子ども家庭支援課や子育て支援者、主任児童員と連携しながらサブコーディネーター、保育ボランティアを中心に参加者と関わり、個別課題の把握や解決を図って参りました。
- ・父親世代の地域参加の大切さや横の繋がりを意識するきっかけ作りの場として、2週連続講座「ハッピーぱぱスクール」を開催。来年度以降も継続して父親世代と地域が繋がるきっかけ作りの場を提供して参ります。
- ・生活支援と連携し、子育て事業と団塊世代の生きがいがづくり事業として日下チェックーズの「災害に役立つ子どもモノづくり教室」の後方支援を行いました。
- ・高齢者向けの事業については、年々参加者は高齢化してきていますが、事業内容やフォロー体制を部門内で検討を重ねてきた事で、概ね計画通り実施出来ました。
- ・障がい事業については担当の主任児童委員と連携して日下小の個別級にケアプラザの事業の周知を図ってきました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・9月に部屋利用団体交流会を開催しました。参加対象を活動内容別に分類し、今回は「調理室を利用する団体」を対象に実施、共通の悩みや課題、お互いの活動を知る良い機会となりました。また2月に行われたつるし雛祭りの後には作品を出展した「手芸サークル」を中心に交流会を実施、来年度以降、「子育て」・「健康づくり」といった他の団体を対象に交流会を実施していく予定です。
- ・今年度もたんぼぼ祭りを開催し多くの地域の方々がケアプラザに足を運んで下さいました。自主事業団体の作品展示からあいさつ推進チームの「ひっしーの部屋」、また、今回から子供向けにハロウィンに関連するお楽しみを用意しました。会場では前回に比べて若い子育て世代、特に父親が子どもを連れて来館する姿を多く見掛けました。
- ・今年度も2月につるし雛祭りを実施、地域の方々の作品を中心に展示していく事で、活動意欲の更なる促進やつながりを深めるきっかけ作りの場を提供してきました。
- ・積極的に子育て広場や赤ちゃん教室での広報活動を行い、支援者側と連携しながら1歳児の親子学級「ありんこクラブ」や「おはなし会」への参加に繋げました。
- ・4月・10月に災害時における安全確保の方法及び避難経路についての説明を行いました。同時に部屋利用時のルールや福祉保健活動の案内など、団体の利用区分や部屋の利用状況に合わせて臨機応変に対応しました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・今年度は通所部門への職場体験だけではなく、小学校向けの施設見学の受け入れなども積極的に実施し、福祉に対して身近な意識を持つ機会としています。
- ・子育て事業に参加していた母親が、担い手やボランティアとして、「1歳児の親子学級ありんこクラブ」や「おはなし会」、「わくわくネットワーク」に参加しています。
- ・港南区社協主催の「男のセカンドライフ」の卒業生がピープル日下のメンバーとして新たに加わりました。
- ・高齢男性の「日下カーペンターズ」は机やいすのねじ締めなどのメンテナンスボランテ

ィアとして、また、貼り絵や折り紙、ガーデニング等の趣味を生かした活動が継続して行われています。

・デイサービスにおいてはボランティアが利用者にとってとても身近な存在になり、利用日を楽しみにしている方が沢山いらっしゃいます。

・笹下川再生プロジェクトの「川の学校」では、港南区だけではなく、他区からも申込みがあり笹下川を拠点に活動が広がり、子ども達が地域と繋がる取り組みが確実に浸透している事がうかがえました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

・新たな住民に対するアセスメントを中心に行い、地域別の世代構成をもとにして自主事業の広報活動などに生かしてきました。

・定期的なポスティング活動を継続してきたことで新たな住民と「顔の見える関係」ができ、ケアプラザの事業に参加するきっかけを提供してきました。

・新築の戸建が増えてきており、子育て世代がケアプラザを利用する機会が増えてきました。

・「日下元気通信」を発行する事で、地域の行事やサロン活動などを多くの住民に周知する事が出来ました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

・ 居場所づくりや地域課題を議論する「茶の間会議」では住民と専門職が互いの役割を認識し地域の目指す姿を共有することで新たな仕組みづくりの糧となりました。

・ 福祉ネットワークピープル日下の生活支援の取り組みを包括(主任ケアマネ)と連携し活動の調整や後方支援を行いました。今年度は通常の研修の他、記録的な猛暑のなかで活動する会員向けに熱中症対策に適した研修も臨時で開催しました。またピープルで捉えた独居高齢者の課題を包括主催の地域ケア会議で検討し個人に対する支援と地域ぐるみで支える環境を進める機会となりました。

(概ね昨年同様 活動件数 189 件・V0 動員数のべ 683 名・草取り・剪定 37 件)

・ また介護予防の分野では区保健師・包括看護師と人のつながりの再生と地域の健康増進を目指しました。後方支援をしている3つの元気づくりステーションは要支援の方や独居高齢者の集いの場にもなっており高齢世話役が住民同士の自発的な支えあいを担い住民主体のサロンとして定着してきました。

今年度立ち上げた健康麻雀では地域と希薄だった住民の参加により世話役のチーム力で活発な交流の場となってきました。参加者からピープル日下入会やケアプラザに初めて来館するなど新たな繋がりが始まりました。

・ 「日下あいさつ運動」では住みよい地域づくりを推進するために住民の新しい視点や斬新なアイデアを5職種で応援しました。納涼祭で日下あいさつ音頭・小学校の登校時の見守り・あいさつ川柳の募集には小学生から高齢者まで270作品が集まりました。今年度は地域行事のなかであいさつ運動が展開されたため円滑に活動できるよう地域や企業との調整役を担いました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ◆ 住民の健康意識の高まりで地域の体操指導者が必要だとの相談を受け「日下体操指導者養成セミナー初級編」を2月より開催、新たな人材育成や介護予防拡充を目指しサロンで活躍する体操指導者の仕組みづくりを住民と共に検討していきます。
- ◆ 元気な時に老後の人生プランを選択したいとのニーズから包括社会福祉士と共催し「わたしが描く未来プラン」講座を3月に開催、31年度から区で展開される「エンディングノート」の普及啓発につないでいきます。
- ◆ 各自治町内会のシルバーサロンや高齢者サロンに出向き運営上の困り毎の相談やケアプラザと関わっていない住民との関係づくりに努め、個別の相談は包括につながりました。また住民主体の既存活動を支援することでコミュニティの活性化や潜在的なニーズを把握することができました。
- ◆ 自治町内会のサロン参加者に緊急時対応のためにひまわりホルダーの申請を促進し申請者が初めてケアプラザに来所する機会となりました
- ◆ 日下の近隣店舗の宅配情報を調査し集めた情報をサロン情報と併せて地域住民、他職種に提供しました
- ◆ 地域にある住民主体の資源を総合事業に活用する機会となるよう、収集した様々な情報は「日下インフォーマルファイル」を個別に作成し包括・ケアマネに提供しました

(3) 連携・協議の場

- ◆ 前年度日下のマイスター講座に参加した団塊世代住民と地域事情に詳しい住民が共に協力し雑色南自治会館で本格的な珈琲を提供する「和楽」が立ち上がりました。近隣の集合住宅や他地区から100名弱の住民が立ち寄り地域の絆づくりの場として新たな居場所となりました。今後も地域の様々な情報収集の拠点として地域ニーズの把握・分析に努め地域の実情に応じた活動を後方支援します。
- ◆ 地域の既存活動と創出した居場所を報告する交流会「第2回日下の茶の間」を開催、自治町内会長はじめシルバー会役員など33名が参加、高齢者を取り巻く現況を学び地域ぐるみで日下のサロンを応援する働きかけができました。
- ◆ 日下でまだ把握出来ていない困り毎を検討する協議体「第2回見守り交流会」を郵便局・コンビニ・コープなど地域住民と併せて38名の参加で開催、日下の買い物状況と商店の取組を紹介し見守りを兼ねた地域との連携強化を目指しました。2月にはきめ細かな支援体制に向け、見守り・支えあいマップを盛り込んだ第3回協議体に結びました。
- ◆ 日下チェッカーズの「災害に役立つ子どもモノづくり教室」では団塊世代の生きがいづくりを推進する生活支援体制整備と子ども応援事業を担当する地域交流とが協力し後方支援を行いました。
- ◆ 3月に薬局・薬品会社の地域貢献事業として「第3回日下健康フェスタ」を開催し地域の健康維持・増進を図りました。
- ◆ 「茶の間会議」「ピープル日下実行委員会」「あいさつ運動推進委員会」「日下チェッカーズ定例会」「和楽定例会」「地域づくり会議」など既存の会議からニーズの把握・地域分析・情報提供に努めました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ◆ 日野地区民生委員と認知症サポーター養成講座を共催することで包括エリアの不足する広域的な地域活動を把握することが出来ました。
また他地区の福祉ネットワーク会議に参加し情報収集や地域特性を踏まえた意見交換が出来ました
- ◆ 他地域ケアプラザ・社協・区と共催するセカンドライフ大学校の企画担当を担い2025年団塊世代の社会貢献を促進する人材発掘事業に努めました。日下地区からは3名の新たな住民が参加、ピープル日下に2名入会し若手会員として今後の活躍が期待されます。
- ◆ 把握できていなかった笹下7丁目の住民との関係づくりに努め、今年度新たな情報を収集することができました。
- ◆ 区と区内ケアプラザ連携事業である見守り協力事業者の取り組みで日下地区の各事業所に出向き36件の協力を得ることが出来ました。現在地域では住民を気にかけてくれるゆるやかな見守りが行われています。登録事業所には定期的に広報誌を配布するなど地域活動の周知をしました。
- ◆ 区のシニア大学対象の認知症サポーター養成講座を包括社会福祉士と実施し認知症を理解する普及啓発に取り組みました。日下地区で新たなキャラバンメイト推進を図ったことで次年度の日下認知症キャラバンメイトネットワークづくりの準備ができました。
- ◆ 茶の間会議のメンバーと港南台・屏風ヶ浦の親子食堂の実態把握し多くの問題や課題を共有することができました
- ◆ 協議体や地域ケア会議のなかで課題となっている「買い物支援」の具体的な解決策として隣接する磯子地区ではじまるコンビニの移動販売の取組をヒヤリングしました。実施にあたっては当包括エリアでも移動販売が可能であることを確認、今後コンビニと地域が連携するためには様々な問題を検証し確実なニーズの把握や自治町内会、関係機関等との調整に努めていきます

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- ◆ 5職種それぞれが持っているネットワークに関する情報を、常に共有するように心がけており、事業開催についてはお互いの専門性を生かして実施することが出来ている。
- ◆ 地域包括支援センターの周知を図るために、広報紙の班回覧や、エリア内の民児協に出向き配布するなどの取り組みを行ってきました。また、元気づくりステーションではひまわりホルダーの周知をすることで、地域ケアプラザに足を運んでもらえるよう働きかけました。更には、日下地区で開催されている各々のサロンに顔を出すことで周知につながっています。
- ◆ 日下地区のボランティアグループの定例会に参加し、ボランティアとの交流を深めるとともに、個別支援から抽出された課題の解決を一緒に考える場としました。そのことから、外からは見えない複雑な問題が多々あること、それに対して理解を示そうとする姿勢が益々強化されたものと考えます。
また、住民参加型サービスグループとケアマネジャーが情報交換できる場を設定しました。
- ◆ 地域ケア会議で発案され、未来カフェで現実の取り組みとなったあいさつ運動は、毎月定例会を重ねています。今年度は小学生の登下校時の見守り活動や、多世代を対象に「あいさつ川柳」を募集し優れた作品には表彰するなどの新たなことにも取り組みました。優秀賞を得た作品については日下地区のスローガンとし、地域の中で顔の見える関係作りにつなげていく方針です。

②実態把握

- ・ 5職種が各専門性を生かし地域の情報収集に努め情報共有を行いました。
- ・ 下記、元気づくりステーションの後方支援をしました。
 1. 元気はつらつラジオ体操では、笹下ハイツの地域住民同士の繋がりが強まり誰もが気軽に集える場となっています。
 2. 関ふれあいサロンでは、口コミや掲示板をみて参加者が徐々に増えてきています。虚弱高齢者同士が、励まし合い通い続けられる場となっています。コアメンバーや世話役の方も、優しく見守り支援してくれています。
 3. 雀友会では、血圧測定も定着し健康にも気を付けています。間違えても笑い会える仲間関係が築けています。
 4. 虹の会では、参加者に変化はないか様子を見守り、気になる参加者の情報交換を講師と行うなどの認知症の早期発見に努めました。
- ・ 雑色の長寿会・関長寿会では、介護予防普及強化事業を開催し新規に受講する方が殆どでした。今後も、事業の展開をすることで介護予防・健康づくりの意識を高める事が出来る様に支援する必要性を見出しました。
- ・ ケアプラザから遠い地域の働きかけとして、介護予防普及強化事業を展開しました。各職種と連携し、町内会長や民生委員・地域住民に理解と周知を図りました。4回シリーズで、コグニサイズを開催、地域住民同士の繋がりが希薄であり、虚弱高齢者の集う場が無い事を把握できました。
- ・ 毎月ケアプラザの広報紙を、町内会の役員に手渡す事で顔の見える関係性づくりに努めました。

③総合相談支援

- ・ 相談に対しては迅速に訪問等を行い、状況を確認し適切なサービス、関係機関、医療、制度などに繋げ連携し支援をしています。
- ・ 継続して支援が必要なケースには、関係機関、地域の民生委員等と連携を図りながら安否確認、見守り等の支援を継続して行っています。
- ・ ケアプラザから離れている地域に対しては毎月開催されるサロンにて出張相談を継続して行っています。地域の方々、民生委員の方からの相談を受け包括支援センターが相談窓口であるという周知に繋がっています。
継続して出張相談を行っていることにより包括が周知され相談件数が増えており、要援護者の掘り起しになっています。
- ・ ケアプラザ内の各部門と連携し共有した地域での課題に対して民生委員、ボランティア、区役所等と情報を共有し会議を開き課題の解決に努めています。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・ 権利擁護の普及啓発として今年度は3月に生活支援コーディネーターと共同で「わたしが創る未来プラン」として3回の講座を行いました。
講座を通じて必要な制度等の支援へと繋げることができました。
- ・ 成年後見制度等権利擁護の関する相談があった場合には、訪問等を行い状況把握し、制度等について情報提供を行っています。
- ・ 介護保険事業者と連携を図り、成年後見制度やあんしんセンターの利用が必要とみられるケースに関しては各機関と連携し支援を行っています。

②高齢者虐待への対応

- ・個別の虐待ケースには早急に事実確認を行い緊急判断シート等活用しつつ状況の把握をし、区役所、関係機関と連携し迅速な支援を行いました。
- ・高齢者虐待防止、早期発見の普及啓発の為に区内包括社福士会にて、民生委員やケアマネジャーを対象に講座を開催しました。
- ・「介護者のつどい」を毎月開催し、介護者同士の交流会、施設見学、セルフケア（コグニサイズ、アロママッサージ）、福祉用具使用体験等を行い介護者支援に努めました。介護者に情報提供や安心して話せる場を提供することで虐待防止の一翼を担えています。

③認知症

- ・認知症の理解と普及啓発の為に生活支援 Co と共同で港南区のシニア大学にて認知症サポーター養成講座を開催しました。
- ・地域の自治会、民生委員、キャラバンメイトの方々、生活支援 Co と連携し地域にて認知症の本人・家族を支える体制等を確認しました。
- ・港南区認知症キャラバンメイト連絡会にて研修と意見交換を行いました。
- ・「若年性認知症のつどい」を区内ケアプラザ、社協共催にて9月に開催しました。1月にも開催を予定し自主グループ化等についての意見交換等も行いました。今後の支援についても支援者間で連携を検討していきました。
- ・「介護者のつどい」においても認知症の理解と対応について情報提供を行っていきました

（3）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・地域ケア会議の場では、地域ケア会議とは何かについて説明する機会を設けることで、参加者それぞれが地域でどのような人が生活をしているのかを知り、課題を把握する機会になるよう働きかけました。また、連合の一部しかかかわりのない地域に於いては、昨年からは始めた懇談会を設け、情報交換する場としました。懇談会に出席している一部の住民とは顔の見える関係が構築出来つつあります。
- ・中級ケアマネジメント講座では、住民参加型サービスグループと居宅のケアマネジャーが顔を合わせる機会と、サービスBについて情報提供をする場をつくりました。また、ケアマネジャーと民生委員がつながる場としての懇談会を開催します。ケアマネジャーと民生委員の連絡票についても更に周知を行います。

②医療・介護の連携推進支援

- ・ケアマネジャーが気軽に情報交換できる場としてDrとの相談タイムを開催しています。日下エリアの内科医師は全て協力していただくことになりました。また、薬剤師との相談会も継続して行っています。医師の方からは「診察室以外での様子が良くわかる」「主治医意見書は書いているけれど、その後どのようにサービスにつながるのかの流れがわかった」などの声をいただきました。ケアマネジャーからは、医療からの視点を把握することができ、ケアプランに生かせる、課題解決の糸口になったなどの声がありました。双方にとって貴重な場となっています。
- ・港南区では医療と介護の連携に関する取り組みが医師会や医福ネットなどで精力的に行われています。それぞれの取り組みには主任ケアマネジャー分科会から事務局として参加をすることで、福祉側からみた医療との連携のあり方に対する提案が出来ています。
- ・多職種連携会議の事務局として参加し、研修等の企画をしました。

③ケアマネジャー支援

- ・ 11月末現在でケアマネジャーからの個別ケースに関する相談が約350件、その内ケアプランに関する相談が約160件、支援困難事例に関する相談が約160件となっています。ケアマネジャー支援事業の際には努めて声をかける、寄せられた相談に対しては真摯に受け止める姿勢を心掛けています。また、適切な助言ができるよう包括内でも情報の収集・交換・伝達をするようにしています。
- ・ 初級ケアマネジメント講座を区と共催にて滞りなく開催することが出来ました。5月には施設見学会、9月から11月にかけて5回にわたり研修を開催しました。回を重ねる毎に参加者同士のまとまりが見え、必要な知識を得ることが出来ました。講座終了後には自主学習グループとして今後も活動することとなりました。平成18年度から始まったこの講座で12個目のグループとなりました。
- ・ 今年度は居宅介護事業書に関わる介護保険制度改正もあったため、正しい情報を提供するため7月に講師を招き、改正のポイントについての講習会を行いました。また、2月には主任介護支援専門員向けに、今求められている地域包括ケアシステムの推進について研修を開催しました。また、高齢者がどのような暮らしを望んでいるのかを引き出し、持っている力を発揮できるようなアプローチ方法を学ぶための学習会も開催しています。これらの取り組みの全てがケアマネジメントの質の向上に繋がっているものと考えます。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・ 地域住民が気にしている事例を取り上げ、個別ケース会議を開催しました。地域住民それぞれがまずは自らの生活を大事にしつつ、一人一人が出来る事は何かを考える機会としました。また、精神科領域での専門家を迎え、どのように対応すれば良いのかアドバイスを頂いたことは、参加者全てが疾患の理解をする機会にもつながりました。
- ・ 地域ケア会議そのものが、顔の見える関係作りの一歩となり、お互いの役割を知ることの出来る場となっています。ケース検討では役割分担をすることでおのずと「地域で見守る」という目的のもとでの連携が図れているものと考えます。
- ・ 年度末には「支援を受け入れない独居高齢者への支援」について個別ケース会議を予定しています。個別ケースの積み上げによって見えてきた共通する課題は何か、それに対してどのように対応できるかを地域全体で考える機会として包括レベル会議に結びつけていきます。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・ 委託先のケアマネジャーが利用者の意欲や意向を汲み取り、利用者との目標が共有できているか確認する為、3職種で協力し担当者会議に参加することに努めました。また、サービス計画書の妥当性や悪化防止や改善が図れている内容であるかの確認を行いました。
- ・ 介護保険サービス以外の地域の集いの場、元気づくりステーション等の情報提供を行うことで地域との繋がりがもてるように支援しました。
- ・ 介護予防・生活支援サービス事業について、訪問介護相当サービスを継続し利用できるか等の相談があり、総合事業のパンフレットを活用し助言支援に取り組みました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・ 下記、介護予防普及啓発事業を開催しました。
 1. 雑色町内会館・長寿会では、「口腔ケア」を開催しました。
 2. 日下地域ケアプラザでは、「コグニサイズ（ロコモ予防・認知症予防）・口腔ケア・アロマセラピー・ピラティス」を開催しました。
 3. 関町内会館では、「理学療法士によるロコモ予防」を開催しました。
 4. 一・第二長寿会では、「栄養について」
 5. 日野分譲地区では、「理学療法士によるロコモ予防」を開催しました。
 6. ならと会館「コグニサイズ・4回シリーズ」
- 各長寿会やサロンで介護予防普及啓発を行いました。
- ・ 区や生活支援CO・包括職員と協力し、元気はつらつラジオ体操・関ふれあいサロン・雀友会・虹の会の支援に努めました。
- ・ 雀友会は、今年度の5月に元気づくりステーションとして立ち上げています。港南台からバスを乗り継ぎ来ている方や、軽度認知症の方も受け入れる事が出来る居場所となっています。
- ・ 元気はつらつラジオ体操は、コアメンバーを始め男性陣が協力的であり、ウォーキング等の下見などの役割を持って生き活きと行っています。認知症の方もメンバーが送り迎えをし、参加することができています。ファミリーデイ等、若い世代も気軽に来れるように工夫しています。年二回の研修で学んだことをラジオ体操の合間に取り入れ継続して行えています。
- ・ 関ふれあいサロンでは、要支援者（5人）・要介護者（1人）や虚弱高齢者も気軽に参加できる場となっています。コアメンバー・麻雀ボランティア・民生委員・保健活動推進委員等沢山の方の協力や理解がもてる様になり健康づくり・介護予防について周知できるようになってきています。

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

地域の方々が安心して快適に利用できる施設を目指し、維持管理に努めました。

- ① 専門業者による設備・保守点検業務を協定書に基づき実施しました。
- ② 専門業者による内外の清掃に加え、ボランティアグループ・自治会・町内会の方々・職員による自主活動として外構清掃、草取り剪定などを適宜実施しました。
- ③ 新たに花植え植栽管理のボランティアの活動が始まり、笹釜通り沿いの歩道際への花植え、3階ベランダの管理を行ない、来館者の目を楽しませています。
3階のベランダでの活動には男性のグループも協力しています。
- ④ 経年劣化による修繕が必要となる築年数となっているため、小破を含め職員、利用者も含め注意深く会館の点検・管理を実施し、必要な修繕を行ないました。

(2) 効率的な運営への取組について

- ① 職員ひとり一人が省エネ、経費節減の意識を持ち取り組むことで、水道光熱費、消耗品費などを節約することができました。
- ② 部屋利用者にも冷暖房や節電、省エネを呼びかけ、協力を得ることができました。
- ③ 社会福祉法人会計について管理職が学び、経営的な視点を持ち業務にあたりました
- ④ 毎月試算表をチェックして、予算の執行状況を把握しました。

(3) 苦情受付体制について

苦情は、より良い運営への大切な提言と捉え、真摯に受け止め改善に努めました。

- ① 利用者が苦情を寄せやすいよう「苦情受付箱」を設置しています。
- ② 毎年利用者アンケートを実施し、広くご意見を伺い、不備の点については改善に努めました。
- ③ 苦情とまではいかないものの利用者から寄せられた意見には真摯に対応し、改善できることは改善し、難しい点については丁寧に説明し納得していただきました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ① 緊急時には、どの職員でも対応出来るよう、「緊急ファイル」を準備し、災害に応じた対応ができるマニュアル、連絡先などを管理しています。
- ② 年4回、避難訓練を実施し、地震、火災への対応を繰り返し訓練しました。
- ③ 災害時の「特別避難場所」に指定されているため、マニュアルを整備し、必要な備蓄、防災用品、職員の招集方法、開設までの手順などを定めています。
- ④ 地域の防災訓練と連携し、地域防災拠点から要援護者を搬送する「特別避難場所開設訓練」を実施、実際に障がい者にも参加していただきました。
- ⑤ 「子ども110番の家」「防犯パトロールステッカー貼付」など地域の防犯活動に協力しました。
- ⑥ 施設は浸水想定区域に指定されているため、洪水を想定した「避難確保計画」を策定しました。

(5) 事故防止への取組について

- ①事故防止に向けて、常に安全を第1に業務を行ないました。
- ②年間で車両事故が数件発生してしまいました。職員にはそのたびに厳密な注意を行ない、その原因を職員全員で検証しています。
- ③通所介護部門では、毎日のミーティングでヒヤリハットを報告し、業務日誌に記録して、事故防止の取り組みに生かしています。
- ④事故の起きやすい場所を職員が共有し、安全に努めています。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ①横浜市の個人情報保護施策に従い、職員一人ひとりが個人情報の漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止、その他の個人情報の適正な管理のために、必要な措置を講じます。
- ②各種研修会には管理・責任者が必ず出席し、内容を職員に伝達研修しました。
- ③職員に個人情報保護に関する資料を配付すると共に、部署ごとに研修会を実施しました。
- ④個人情報の持ち出しは、「個人情報の持出簿」を作成し、所長、及び、管理者の承認を得ることとしています。
- ⑤ファックスでの情報送信は、個人情報を隠し、必ず2名で送信先を確認しました。
- ⑥上記の手段を講じておりましたが、個人情報の漏洩が発生してしまいました。その原因を究明して職員で共有し、再発防止策を考えました。

(7) 情報公開への取組について

- ①ケアプラザでの業務、文書は情報公開の対象となることをふまえ、適切な記録、報告書の作成を行います。
- ②ケアプラザ広報誌、デイサービス広報誌で、ケアプラザの取り組みを広く地域、家族にお知らせしました。
- ③ホームページ、市の施設情報など、定期的に情報の更新を行い、新しい情報を発信しました。
- ④公開の請求があった場合は、市の個人情報の規程に基づき情報を公開します。

(8) 人権啓発への取組について

- ①社会には、女性や子ども、高齢者、障害者、外国籍、同和問題や人種など、様々な差別や人権侵害があることを理解し、職員はひとり一人が人権尊重の大切さを理解し、ソーシャルインクルージョンを基本に業務にあたりました。
- ②権利擁護、高齢者虐待について、職員研修を実施しました。
- ③地域に向けて、地域づくり会議主催での「障害の理解」、ボランティアや民生委員向けには「認知症の理解」「高齢者虐待防止」などをテーマとした地域ケア会議や、勉強会などを開催し、人権啓発を行ないました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ①職員、利用者に冷房暖房の適切な使用を徹底し、電気についても極力必要な所のみにするなど、省エネに努めます。
- ②ゴミは、担当者を決め、市の事業所分別の規程に従い、分別を徹底します。
- ③印刷用紙は裏紙の使用、メモ用紙への転用などで、無駄の無いよう取り組みます。
- ④訪問活動には、自転車、徒歩を推奨し、CO2の削減に努めました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

看護師	1名
社会福祉士	1名
主任ケアマネジャー	1名

《目標に対する成果等》

- ・委託先のケアマネジャーが利用者の意欲や意向を汲み取り、利用者との目標が共有できているか確認する為、3職種で協力し担当者会議に参加することに努めました。また、サービス計画書の妥当性や悪化防止や改善が図れている内容であるかの確認を行いました。
- ・介護保険サービス以外の地域の集いの場、元気づくりステーション等の情報提供を行うことで地域との繋がりがもてるように支援しました。
- ・介護予防・生活支援サービス事業について、訪問介護相当サービスを継続し利用できるか等の相談があり、総合事業のパンフレットを活用し助言支援に取り組みました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
155	156	155	157	152	160
10月	11月	12月	1月	2月	3月
160	155	164	163	161	162

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

平成30年4月～9月

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 3名（常勤兼務1名、常勤専従2名）

平成30年10月～平成31年3月

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 4名（常勤兼務1名、常勤専従3名）

《目標に対する成果等》

- 利用者の尊厳を守る
利用者の意向を尊重し、その家族の想いも含め、住み慣れた自宅での生活が続けられるように支援に取り組みました。各サービスについての情報提供や事業所選択等を行い利用者主体の生活が出来るよう支援しています。
- 連携・協働を図る
スムーズな支援に移行できるよう、地域包括支援センターを始め、ケアプラザ各部門とも連携を図り支援に取り組みました。医療関係者（医師や病院相談員、薬剤師等）とも連携する機会が増え、利用者支援にとってプラスとなっています。
- 社会資源の活用
社会資源の理解と関係性の構築に取り組みました。地域の強みを活かしたインフォーマルサービスの情報提供を行い、利用の際には関係者へのパイプ役になれるよう支援しました。
- 職員の資質・専門性の向上
地域の病院やケアプラザ等主催の研修会への参加、近隣のケアマネジャー連絡会の研修会参加を積極的に行いました。今年度は、他法人との研修会（事例検討会の開催）にも取り組み自己研鑽に努めました。
- 安定した事業運営
法令順守に努め、運営基準に沿った業務に取り組みました。常勤職員の増員により、平成30年10月請求分より特定事業所加算Ⅱの算定を取るようになりました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 担当者がサービス提供地域を越えて訪問する必要がある場合には、その利用した公共交通機関の運賃実費。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者やその家族が夜間でも不安なく生活できるよう、24時間対応の相談支援を行っています。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
99	96	94	96	95	91
10月	11月	12月	1月	2月	3月
88	87	88	92	96	94

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 入浴
- 個別機能訓練 I
- 中重度者ケア体制加算
- サービス体制強化加算 I
- 介護職員処遇改善加算 I
- 生活機能向上連携加算

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

1割負担分【1回あたり】		2割負担分【1回あたり】	
(要介護1)	691円	1382円	
(要介護2)	815円	1631円	
(要介護3)	946円	1893円	
(要介護4)	1075円	2150円	
(要介護5)	1204円	2409円	

- 食費負担 750円【1回】
 - 入浴加算 53円【1回】
 - 個別機能訓練 I 加算 49円【1回】
 - サービス体制強化加算 I (イ) 19円【1回】
 - 中重度者ケア体制加算 48円【1回】
 - 生活機能向上連携加算 107円【1月】
- ※生活機能向上連携加算は個別機能訓練 I を利用していない方は、214円【1月】

- 送迎費用 110円（エリア外のみ1kmにつき）
- 紙おむつフラットタイプL 160円（1枚）
- 紙おむつフラットタイプM 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプL 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプM 110円（1枚）
- パット 30円（1枚）
- 絆創膏 10円（1枚）
- 滅菌ガーゼ 20円（1枚）

※その他、特別行事に参加される場合、事前に説明の上で別途費用をご負担いただく場合があります。

《事業実施日数》 週6日（日曜日を除く）

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

- 管理者 : 1名(常勤兼務)
- 生活相談員 : 5名(常勤兼務)
- 介護職員 : 6名(常勤兼務) 13名(非常勤兼務)
- 看護職員 : 1名(常勤兼務) 3名(非常勤兼務)
- 運転職員 : 非常勤3名
- 調理員 : 非常勤6名

※平成31年3月31日現在

《目標に対する成果等》

利用者の多くが利用を通じて日常生活動作訓練に意欲的に参加できたことでADLを維持し自分のできることを徐々に増やして在宅での生活を継続されています。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

テーブル、椅子は運動生理学に基づいて特別に設計されており（身長に応じて高さの違うものを用意している。）座位の保持、立ち上がり動作に適している。さらにテーブルはレイアウトが自由な設計でコミュニケーションツールとしても優れている。また導線には手すりを設置、浴槽は個別浴槽を用意し1日を通して生活動作訓練を行える環境を整えている。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
533	531	529	513	502	492
10月	11月	12月	1月	2月	3月
584	567	539	539	509	595

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- サービス提供体制加算 I
- 生活機能向上連携加算
- 介護職員処遇改善加算 I

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- | | |
|----------------|----------------|
| ● 1割負担分【1月あたり】 | ● 2割負担分【1月あたり】 |
| （要支援1） 1765円 | 3530円 |
| （要支援2） 3620円 | 7240円 |
| ● 食費負担 | 750円【1回】 |
| ● サービス体制強化加算 I | 77円（要支援1）【1月】 |
| ● サービス体制強化加算 I | 154円（要支援2）【1月】 |
| ● 生活機能向上連携加算 | 214円【1月】 |

※ その他、利用実績に応じて介護職員処遇改善加算（I）が付きます。1割負担分

- | | |
|----------------|--------------------|
| ● 食費負担 | 750円 |
| ● 送迎費用 | 110円（エリア外のみ1kmにつき） |
| ● 紙おむつフラットタイプL | 160円（1枚） |
| ● 紙おむつフラットタイプM | 140円（1枚） |
| ● 紙おむつパンツタイプL | 140円（1枚） |
| ● 紙おむつパンツタイプM | 110円（1枚） |
| ● パット | 30円（1枚） |
| ● 絆創膏 | 10円（1枚） |
| ● 滅菌ガーゼ | 20円（1枚） |

※その他、特別行事に参加される場合、事前に説明の上で別途費用をご負担いただく場合があります。

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

- | | | |
|-------|------------|------------|
| 管理者 | : 1名(常勤兼務) | |
| 生活相談員 | : 5名(常勤兼務) | |
| 介護職員 | : 6名(常勤兼務) | 13名(非常勤兼務) |
| 看護職員 | : 1名(常勤兼務) | 3名(非常勤兼務) |

※平成31年3月31日現在

《目標に対する成果等》

利用者の多くが利用を通じて日常生活動作訓練に意欲的に参加できたことでADLを維持し自分のできることを徐々に増やして在宅での生活を継続されています。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

テーブル、椅子は運動生理学に基づいて特別に設計されており（身長に応じて高さの違うものを用意している。）座位の保持、立ち上がり動作に適している。さらにテーブルはレイアウトが自由な設計でコミュニケーションツールとしても優れている。また導線には手すりを設置、浴槽は個別浴槽を用意し1日を通して生活動作訓練を行える環境を整えている。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
67	71	71	63	73	82
10月	11月	12月	1月	2月	3月
85	92	96	106	110	140

平成30年度「横浜市目下地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,974,600	1,200,508	18,175,108	18,175,108	0	横浜市より
利用料金収入	0	0	0	0	0	
指定管理料充当 事業	0	0	0	0	0	
自主事業収入	0	0	0	475,350	△ 475,350	
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0	0	0	0	0	
自動販売機手数料	0	0	0	0	0	
駐車場利用料金収入	0	0	0	0	0	
その他（指定管理料充当分）	0	0	0	0	0	
その他（施設使用料相当額 法人負担分）	3,990,000	0	3,990,000	0	3,990,000	
その他（提案時控除 法人負担分）	0	0	0	0	0	
収入合計	20,964,600	1,200,508	22,165,108	18,650,458	3,514,650	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,720,000	0	10,720,000	12,689,512	△ 1,969,512	
本俸	7,150,000	0	7,150,000	7,924,060	△ 774,060	
社会保険料	800,000	0	800,000	1,360,990	△ 560,990	
手当計	2,600,000	0	2,600,000	3,030,423	△ 430,423	
健康診断費	14,000	0	14,000	23,812	△ 9,812	
勤労者福祉共済掛金	9,750	0	9,750	3,750	6,000	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	79,500	0	79,500	318,540	△ 239,040	
その他	66,750	0	66,750	27,937	38,813	
事務費	900,000	0	900,000	839,007	60,993	
旅費	10,000	0	10,000	2,460	7,540	
消耗品費	300,000	0	300,000	220,554	79,446	
会議購入費	0	0	0	0	0	
印刷製本費	20,000	0	20,000	0	20,000	
通信費	150,000	0	150,000	143,574	6,426	
使用料及び賃借料	0	0	0	7,000	△ 7,000	
横浜市への支払分	0	0	0	7,000	△ 7,000	
その他	0	0	0	0	0	
備品購入費	200,000	0	200,000	172,254	27,746	
図書購入費	0	0	0	0	0	
施設賠償責任保険	80,000	0	80,000	48,316	31,684	
職員等研修費	10,000	0	10,000	0	10,000	
振込手数料	0	0	0	0	0	
リース料	0	0	0	198,419	△ 198,419	
手数料	0	0	0	0	0	
地域協力費	10,000	0	10,000	17,430	△ 7,430	
その他	120,000	0	120,000	29,000	91,000	
事業費	1,192,000	0	1,192,000	582,823	609,177	
運営協議会経費	42,000	0	42,000	21,903	20,097	
指定管理料充当 事業	1,150,000	0	1,150,000	560,920	589,080	
管理費	7,295,000	1,200,508	8,495,508	9,442,306	△ 946,798	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	3,715,000	0	3,715,000	4,316,662	△ 601,662	
電気料金	0	0	0	0	0	
ガス料金	0	0	0	0	0	
水道料金	0	0	0	0	0	
清掃費	1,230,000	0	1,230,000	1,293,619	△ 63,619	
修繕費	474,000	1,200,508	1,674,508	1,674,508	0	
機械整備費	370,000	0	370,000	372,678	△ 2,678	
設備保全費	1,485,000	0	1,485,000	1,478,768	6,232	
空調衛生設備保守	400,000	0	400,000	441,958	△ 41,958	
消防設備保守	60,000	0	60,000	68,264	△ 8,264	
電気設備保守	85,000	0	85,000	96,667	△ 11,667	
害虫駆除清掃保守	45,000	0	45,000	47,780	△ 2,780	
駐車場設備保全費	0	0	0	0	0	
その他保全費	895,000	0	895,000	824,099	70,901	
共益費	0	0	0	0	0	
その他	21,000	0	21,000	306,071	△ 285,071	
公租公課	857,600	0	857,600	1,015,160	△ 157,560	
事業所税	857,600	0	857,600	857,600	0	
消費税	0	0	0	1,015,160	△ 1,015,160	
印紙税	0	0	0	0	0	
その他（ ）	0	0	0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	0	0	0	0	0	
本部分	0	0	0	0	0	
当該施設分	0	0	0	0	0	
二一対対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	20,964,600	1,200,508	22,165,108	24,568,808	△ 2,403,700	
差引	0	0	0	△ 5,918,350	5,918,350	

自主事業費収入	1,150,000	0	1,150,000	475,350	674,650	自主事業への参加料等
自主事業費支出	1,150,000	0	1,150,000	560,920	589,080	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	△ 85,570	85,570	

管理許可・目的外使用許可収入	0	0	0	0	0	0 駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0	0	0	0	0	0 使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	0	0	

平成30年度 横浜市日下地域ケアプラザ
収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	24,002,000	0	24,002,000	24,002,000	0	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業（包括）	0		0		0	
指定管理料充当事業（介護予防）	0		0		0	
指定管理料充当事業（生活支援）	0		0		0	
自主事業収入			0	27,700	△ 27,700	
雑入	0	0	0	78,140	△ 78,140	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（指定管理充当）	0		0	78,140	△ 78,140	
その他（提案時控除 法人負担分）			0		0	
収入合計	29,942,000	0	29,942,000	30,047,840	△ 105,840	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	25,540,000	0	25,540,000	23,243,631	2,296,369	
本俸	14,100,000		14,100,000	11,735,100	2,364,900	
社会保険料	2,820,000		2,820,000	2,908,537	△ 88,537	
手当計	8,058,000		8,058,000	7,940,353	117,647	
健康診断費	15,000		15,000	22,300	△ 7,300	
勤労者福祉共済掛金	29,250		29,250	23,250	6,000	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	517,750		517,750	351,480	166,270	
その他	0		0	262,611	△ 262,611	
事務費	430,000	0	430,000	938,379	△ 508,379	
旅費	40,000		40,000	59,430	△ 19,430	
消耗品費	50,000		50,000	145,292	△ 95,292	
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	25,000		25,000	67,075	△ 42,075	
通信費	201,000		201,000	296,311	△ 95,311	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費			0	162,234	△ 162,234	
図書購入費	12,000		12,000	12,343	△ 343	
施設賠償責任保険	30,000		30,000	48,316	△ 18,316	
職員等研修費	50,000		50,000	6,550	43,450	
振込手数料	12,000		12,000	9,828	2,172	
リース料	0		0	70,000	△ 70,000	
手数料	0		0	0	0	
地域協力費	10,000		10,000	17,000	△ 7,000	
その他	0	0	0	44,000	△ 44,000	
事業費	2,020,000	0	2,020,000	1,001,278	1,018,722	
協力医	630,000		630,000	630,000	0	
指定管理料充当 事業（包括）	930,000		930,000	15,586	914,414	
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000		309,000	204,692	104,308	
管理費	1,952,000	0	1,952,000	2,190,848	△ 238,848	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	
光熱水費	1,050,000	0	1,050,000	1,147,466	△ 97,466	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	340,000		340,000	343,871	△ 3,871	
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	
機械整備費	9,000		9,000	99,066	△ 90,066	
設備保全費	363,000	0	363,000	393,085	△ 30,085	
空調衛生設備保守	100,000		100,000	117,482	△ 17,482	
消防設備保守	18,000		18,000	18,146	△ 146	
電気設備保守	23,000		23,000	25,696	△ 2,696	
害虫駆除清掃保守	12,000		12,000	12,700	△ 700	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	210,000		210,000	219,061	△ 9,061	
共益費	0		0	0	0	
その他	64,000		64,000	81,360	△ 17,360	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他（ ）			0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記）	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	29,942,000	0	29,942,000	27,374,136	2,567,864	
差引	0	0	0	2,673,704	△ 2,673,704	

自主事業費収入	0		0	27,700	△ 27,700	自主事業への参加料等
自主事業費支出	0		0	371,278	△ 371,278	自主事業経費
自主事業収支	0		0	△ 343,578	343,578	

管理許可・目的外使用許可収入			0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出			0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	0	0	

★指定管理業務・委託業務として実施している介護保険事業のみ、対象です。

平成30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名：日下地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	9400	9518	-118	21000	18936	2064	95500	77220	18280		5487	-5487
	その他	0	0	0	160	0	160	0	1514	-1514	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費			0			0			0			0
	事業・負担金収入			0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0	160		160		1514	-1514			
収入合計(A)		9400	9518	-118	21160	18936	2224	95500	78734	16766	0	5487	-5487
支出	人件費			0	17500	19536	-2036	72500	69548	2952			0
	事務費			0	1100	1132	-32	10500	10359	141			0
	事業費			0	1385	832	553	15000	14071	929			0
	管理費			0			0			0			0
	その他	7800	7041	759	200	169	31	750	713	37	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料			0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0			0			0			0
支出合計(B)		7800	7041	759	20185	21669	-1484	98750	94691	4059	0	0	0
収支(A)-(B)		1600	2477	-877	975	-2733	3708	-3250	-15957	12707	0	5487	-5487

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
ご近所茶話会	高齢者	398,125	地活	21,525	376,600		68,013	330,112
	40名		包括					
	100～5000		生活					
みんなのサロンほかほか	障がい児者親子	24,098	地活	4,048	20,050	5,568	16,197	2,333
	20名		包括					
	250～800		生活					
歌のいずみ	高齢者	16,704	地活		16,900	16,704		
	40名		包括					
	100～500		生活					
やさしいパン教室	地域	16,904	地活	104	16,800		16,904	
	10名		包括					
	1000		生活					
おはなし会(夏・冬)	乳幼児親子	999	地活	999			999	
	50名		包括					
	0		生活					
ちびっこ運動会	乳幼児親子	1,960	地活	1,960				1,960
	50組		包括					
	0		生活					
ありんこクラブ	乳幼児親子	98,495	地活	53,495	45,000		98,495	
	24組		包括					
	1800		生活					
たんぼぼ祭り	地域	648	地活	648				648
			包括					
	0		生活					
つるし雑交流会	ボランティア	2,987	地活	2,987				2,987
	30名		包括					
	0		生活					

平成30年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ご近所茶話会	<p>【目的】 特に一人暮らし、日中独居の高齢者の地域での仲間作り、介護予防、閉じこもり予防を目的として毎月開催。参加者同士が交流することで地域の知り合いが増え、身近な地域でのつながりが生まれる。</p> <p>【内容】暮らしに役立つ話や、昼食会、おやつ作り、手工芸、音楽鑑賞などのプログラムを取り混ぜて茶話会を開催。年3回はボランティアの手作りお菓子でのおしゃべりを中心にしたお茶会を実施。毎年秋には貸し切りバスでの外出プログラムも実施。</p>	毎月第4金曜日 年間12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
歌のいずみ	<p>【目的】 童謡や唱歌、なつかしい歌などをみんなで歌うことで、心をリフレッシュしたり、参加者同士の交流、世代を超えた交流を行い、地域での仲間作りをすすめる。歌うことによる介護予防の効果も期待される。</p> <p>【内容】 童謡、唱歌、なつかしい歌謡曲などをピアノの伴奏に合わせて皆で歌う。デイサービス利用者も、地域の一員として参加。男性の参加も増え、世代性別を超えた交流が進んでいる。</p>	年3回 6月10月2月に開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
やさしいパン教室	<p>【目的】 パン作りを通して世代間交流をはかる。地域のつながり作り。</p> <p>【内容】 地域にお住いの福永さんを講師にパン教室を開催。若い母親から高齢者まで幅広い年代の方が参加できるようにして交流を図る。</p>	1回 5月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさまクラブ	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。 日下地区社協との共催。</p> <p>【内容】多目的ホールを開放し、未就園児と母親が集い交流する場を提供。主任児童委員、保育のボランティア、子供会の母親が支援に入り、気軽に相談などもできるようにしている。笹下南保育園の保育士も都合がつけば参加し相談にのっていただいている。</p>	毎月第3月曜日 年間12回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
公園で遊びましょう	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。外での開催のため、参加しやすくまた、地域にも活動を知ってもらう機会となる。 日下地区社協との共催。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 笹下中央公園での親子での外遊びを、ボランティア、主任児童委員が支援。</p>	毎月第4月曜日 年間12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさま文庫	<p>【目的】 ケアプラザを地域の多くの方々に知ってもらい、気軽に利用してもらうきっかけを作る。福祉保健情報や子育てに関する情報を提供する。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 情報コーナーに戸塚図書館より団体貸し出しを受けた絵本、雑誌、小説、実用書などを地域に貸し出す。手作りおもちゃなどを置き親子で遊べるスペースを作る。(3か月に1階のペースで本の入れ替えを実施)</p>	年間 ケアプラザ開館時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ありんこクラブ	<p>【目的】 一歳児の親子対象の育児講座。9回の講座で、発達の基本を学び、育児の不安解消や、地域での仲間作りをすすめ、地域で楽しく子育てできる環境を提供する。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 発達、栄養、歯科、遊びなどの基本的な講座とそれをテーマにした話し合いや高齢者との交流。終了後はサークル活動に参加するように働きかけている。</p>	全9回 9～12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさま文庫 お話し会	<p>【目的】 親子に絵本の楽しみを知ってもらい、本に親しんでもらう。乳幼児の地域でのつながり作り、仲間作り。絵本読み聞かせボランティア「おひさま」との共催。</p> <p>-----</p> <p>【内容】 ボランティアが、絵本、紙芝居、パネルシアターを演じ、また、手遊び、わらべ歌などを親子で楽しむ。お話し会終了後、絵本の選び方などの交流会を開催する。夏と冬には特別プログラムのお話し会を開催。</p>	毎月第2火曜日 年間10回 夏・冬に特別編

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
わくわくちびっこ運動会	<p>【目的】</p> <p>ケアプラザを利用している子育てサークル間の交流と、未就園児の地域でのつながり作り。</p>	1回 9月
	<p>【内容】</p> <p>笹下中央公園で、未就園の親子対象の運動会を実施。企画や準備は、各サークルが分担して行う。当日はサークル以外の親子も自由参加。乳幼児の保育を「おたすけ隊」や地域のボランティアが担う。</p>	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下地区子育て連絡会(オレンジ会議)	<p>【目的】</p> <p>地域の子育て支援の課題についての話し合いや情報交換を行い、地域の子育て環境の向上や、親子の孤立を防止し、楽しく子育てできるまちづくりを目指す。</p>	年1～2回 10月、2月
	<p>【内容】</p> <p>地域の子育て関係者と学校、場合によっては母親たち当事者を含めた話し合いを開催。昨年度より「虐待」に特化した内容の「日下地区オレンジ会議」と名称を変えて開催。</p>	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下たんぼぼまつり	<p>【目的】</p> <p>学童保育たんぼぼと共催で、お祭りを開催。ケアプラザを知ってもらい気軽に利用してもらおうきっかけ作り。地域の交流。</p>	1回 10月
	<p>【内容】</p> <p>学童のバザー、布おもちゃボランティアや部屋利用団体の手作り品の販売や活動紹介。</p>	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
つるし雛まつり(交流会)	<p>【目的】</p> <p>ケアプラザを地域に知ってもらおうきっかけ作り。文化の伝承。地域のつながり作り。</p>	2日間 2月
	<p>【内容】</p> <p>講習会で作った作品、ボランティア、地域の方々の作品を一同にケアプラザのロビーに展示し、3階では手作りのひな人形や小物を展示。また、セルフ商品やボランティアによる喫茶コーナー、デイサービスの手作り販売などを行う。</p> <p>今年度よりつるし雛祭りに携わって頂いている手芸サークル</p>	

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
笹下川クリーンアップ	<p>【目的】 地域福祉保健計画の推進。 川の清掃活動に参加することで地域とのつながりや、世代間交流、人材の育成を目指す。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【内容】 春と秋に笹下川の清掃を行う。</p>	2回 5月・9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
川の学校 よみがえれ！笹下川	<p>【目的】 地域の現状に目を向け、世代環境をこえて一つの活動を行うことで、地域の交流と地域活動のきっかけ作りを支援する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【内容】 笹下川に清らかな流れを取り戻し、ホタルが住めるような故郷の川を取り戻す事を考える。 区民企画講座の共催。</p>	7回 6～10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
父親向け講座	<p>【目的】 地域の子育て世代、特に『父親』に焦点を当て、地域参加へのきっかけ作りや交流を目的に開催する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【内容】 今年度はNPO法人全日本育児普及協会に講師を依頼し、パパならではの絵本の読み聞かせや防災講座など、子育て世代の地域参加の促進を目的に開催。</p>	2回 12月(第1・2週で実施)

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
介護者の集い	介護者	15766	地活	15766			6863		8903
	51人		包括						
			生活						
主治医との相談タイム	ケアマネジャー	15000	地活	15000					15000
	38人		包括						
			生活						

平成30年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い	<p>【目的】 在宅で介護をしている介護者の孤立化予防及び情報交換、ピアカウンセリングの場と開催し介護負担の軽減を行う。高齢者虐待防止事業の一環として行う。</p> <p>【内容】 フリートーク、介護に関する勉強会、施設見学、健康チェック</p>	毎月1回、第一木曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主治医との相談タイム	<p>【目的】 担当エリア内に利用者をもつケアマネジャーに対して、医療と福祉の連携の一環として担当医と情報交換ができる場を設定する。</p> <p>【内容】 予約制で担当医の時間を確保し、ケアマネジャーが顔を合わせて利用者の相談・情報交換を行う。今年度は3名の医師に協力していただいた。</p>	①毎月第4水曜日 全14回 ②偶数月第3木曜日 全3回

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
おとなの未来設計塾 「私が描く未来プラン」	地域住民	16136	地活			16136		
	87人		包括					
			生活	16136				
第2回日下見守り交流会 (協議体)	地域住民	5000	地活					
	38人		包括					5000
			生活	5000				
第2回日下の茶の間 (協議体)	地域住民	19923	地活			16705		
	33人		包括					3218
			生活	19923				
子どもモノづくり教室	地域住民	45810	地活		7000		38250	7560
	23人		包括					
			生活	38810				
日下体操指導者養成セ ミナー	地域住民	48447	地活			45000		3447
	53人		包括					
			生活	48447				

平成30年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おとなの未来設計塾 「私が描く未来プラン」	<p>【目的】 高齢期を迎えても、自分らしく生活を続ける為に必要な知識や情報等を得て、今後の自身の生活を考える機会とする。</p> <p>【内容】</p> <p>①「家族の絆と家族への想い」人生の終わりを考えるとき ②「夢を見すぎないこれからの人生設計」正しい情報の選択 ③「自分らしい生き方の選択」在宅で長く暮らすために</p>	<p>①平成31年3月10日 ②平成31年3月16日 ③平成31年3月17日</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
第2回日下見守り交流会 (協議体)	<p>【目的】 日下エリアのまだ見えていない困り毎と課題を地域住民・専門職・企業との情報交換することで多様な機関と見守りの関係強化を目指す</p> <p>【内容】 住民が地域にある資源を生かしてできることはないかなど意見交換し近隣店舗や介護予防・生活支援・買い物宅配状況などの情報を提供する機会となった(参加者38名)</p>	平成30年7月25日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
第2回日下の茶の間 (協議体)	<p>【目的】 日下エリアの「居場所」を地域ぐるみで応援して貰う働きかけし支え合う地域を目指して長期的な継続運営を支援していく</p> <p>【内容】 自治町内会を拠点とした新たな活動や様々な既存活動をスライドで紹介し講師にサロンの講評や高齢者を取り巻く現状を住民目線で解説してもらいボランティア活動のモチベーション維持の方法を理解する機会とした(参加者33名)</p>	平成30年8月25日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子どもモノづくり教室	<p>【目的】 自主団体の防災啓発の取組として災害に役立つこどもモノづくり教室を団塊世代の生きがいつくりの活躍の場の提供として生活体制整備で支援、こども応援事業の地域交流部門と2職種連携で地域の子供たちがモノづくりの楽しさや災害の知識や知恵を学ぶ機会とした</p> <p>【内容】 ペットボトルで作るランタン、幾何学がキレイな立体万華鏡、災害時に役立つポリ袋クッキングなどを防災を意識した企画内容で実施した(参加者23名)</p>	平成30年11月4日 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下体操指導者養成セミナー	<p>【目的】 住民の健康意識の高まりや介護予防の要望に応えるために地域で簡単な体操指導ができるボランティアの人材発掘と人材育成を目的とする</p> <p>【内容】 ①血圧測定・ストレッチ実技・自体重運動体験（参加者19名） ②ロコモについて・高齢者の運動支援について・低体力者向け運動指導（参加者18名） ③やさしい解剖学・ストレッチ実技指導実習・低体力者向け運動指導（参加者16名）</p>	①2月12日 ②2月26日 ③3月5日